

戦国時代の三英雄がいないなら、どのぐらい戦国時代が続くかわからないと思う。三英雄の力で戦国時代を終え、全国統一を作り、日本が栄える為にこの三人は頑張っていて凄く感心した。

三人の中で、織田信長になりたいと思う。なぜかというとな信長の敵になると何よりもその考えが恐ろしい、また、全国統一はもちろん素晴らしい目的だと思うが、信長のやり方、つまり、お寺を焼き払ったり、お坊さんを殺したりすることは現代の考え方に対して、絶対無理だと思う。しかし、その時は他の将軍が統一する為に必至なことを色々やっていたので、信長の考え方に反対することも解るが、私は信長だったら、日本の統一の為に同じことをやると思う。

完全に国を治める様に鎖国政策を作り、解るが、「作らいなら、日本の進歩にどの様な影響を与える？」という質問しか考えられなかった。歴史を見るとアメリカも鎖国政策をやり、工業など栄えたが、大恐慌が起こった時に経済的な問題を治す様に第一次世界大戦に入ることになった。日本の場合は大恐慌の様な大変な問題がなかった。また、芸術等という産業が栄えたが、江戸時代が進めば進むほど幕府の力が下がってきて、黒船が来た時にほとんど消えちゃったので、鎖国政策に沿って治められない様になってしまった。特技も弱点もあるが、進化を遂げる様に鎖国をやるのはそんなにわるいことではないと思う。

鎖国政策のおかげで、宗教や外国の情報等日本に入れなく、徳川の幕府は日本の統一を守り、国民の知識を左右出来た。新しい知識が得られるなら、考え方を考える様に出来、自分の国をだんだん左右できないようになる可能である。「知は力なり」という表現は幕府がわかったので、国民を啓発させないように鎖国政策を作り、長く続いた。

確かに日本人の印象は人によって違うものだが、シーボルトの言った言葉も当てはまる。現在の日本人でも、決して悪いことにせよ、いいことにせよ、印象が残り、忘れないものだと思う。

日本に戻ってきた時に日本の愛国心を持っていることもあるが、もう二つ大事なことといえば日本にいる家族の為に日本に戻りたかったこと、また、日本の考え方になってしまい、日本の方が彼の性格に合っていると思われたと思う。「日本人は決して恩を忘れない国民である。また決して不義をも忘れることはない」と言った時に、日本人の考え方に対して言っただけではなく、お互いにあの気持ちを持っていた。

日本に留学した人として、シーボルトの生き方は凄いと思うが、当時にちょっと危なかったである。日本について知識を広げるといふ目的が悪くはないが、厳しく治めている幕府はもう鎖国政策を作ったのにシーボルトに当てはまらなかったという例外を作り、珍しかったである。本当に日本を尊敬したら母国に戻った時に違反なことをやらない方がいいと思う。追放された時にいつか日本に戻られるかわからなく、彼の家族の様子が危なくなる可能なので、日本に関するものを取った前に結果をちゃんと考えるべきであった。